



Plusidea ベーシックメニュー

給水管改修工事

Q

給水管って新築時から
ずっと使ってるけど、
だいじょうぶ？



A

築後15年※を過ぎたら、調査を実施し、
腐食が確認された場合は工事が必要です。

給水管材料の主流として使われている「硬質塩ビライニング鋼管」は、
管の内部が塩化ビニールで被覆されているため、
直管部分には、錆および腐食はほとんど発生しません。
しかし、15年※を過ぎると、継手部のネジ込み部分やバルブ廻り等で、
劣化により錆・腐食が進行することがあります。
放置すると赤水の発生や漏水につながることもあるので、
劣化診断を行い適切な修繕を行うことが大切です。

※水の使用状況、エリアによります。

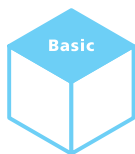
チェックボックスで、チェックしてみてください。

給水管が劣化していませんか？

- ☐ 赤水が出る。
- ☐ 断水後、水の出が弱くなる住戸がある。
- ☐ 15年以上給水管の工事をしていない。
- ☐ 最近、漏水した住戸があった。
- ☐ 給水管の調査をしたことがある。

万が一の備えは安心？

- ☐ 漏水センサーがついていない。
- ☐ 管理組合で個人賠償特約に入っていない。
- ☐ 火災保険で個人賠償特約に入っていない。



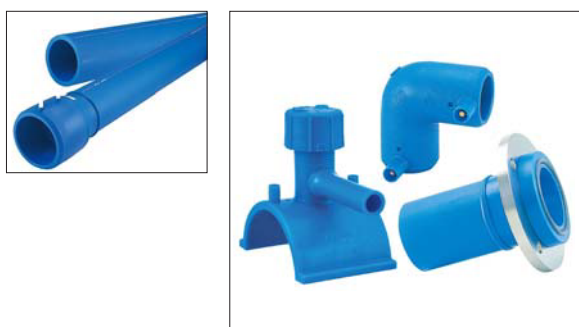
Plusidea ベーシックメニュー

給水管改修工事(共用部)

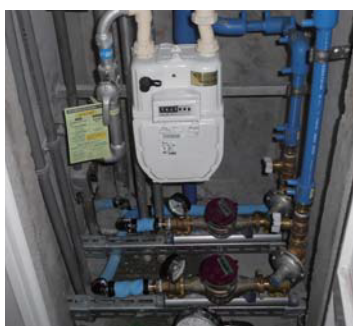
共用部の給水管の更新には、耐久性の高い樹脂管やステンレス管の採用をおすすめします。一時的な資金は必要ですが、一度取り替えたら30年以上改修が不要になります。新しい配管で長期の安心を確保したいお客さまにおすすめです。

樹脂管

●採用している給水管



●設置イメージ



ステンレス管

●採用している給水管



●設置イメージ



工事の特徴

- 1 共用部に使用する樹脂管の場合は、機械による熱溶接※により完全一体化させ、長期的な耐久性を実現しています。
- 2 樹脂管は、耐衝撃性に優れ、埋設部・露出部ともに採用可能です。
- 3 ステンレス管は、既存の給水管に比べ、細くなるため隠蔽部(コンクリート内部の貫通部)の施工に適しています。

※メーカーにより工法が異なります。

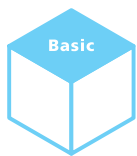
※本資料は、マンションの修繕工事の一般事例の概略を掲載しています。※掲載の写真は参考事例です。実際とは異なる場合があります。
※各工事の作業内容、手順は、建物の状況、お見積り、ご契約、お打ち合わせ等により異なります。※詳細につきましては別途お問い合わせください。

お問い合わせは「くらしサポートデスク」へ

0120-264-406 受付時間／9:00～17:30(年末年始を除く)

DAIKYO

Plusidea-Basic.2020.1.NKS



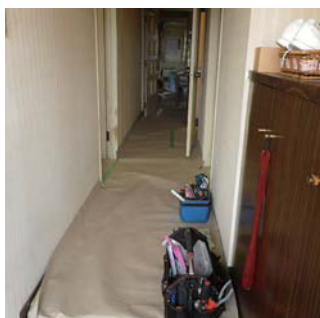
Plusidea ベーシックメニュー

給水管改修工事(専有部)

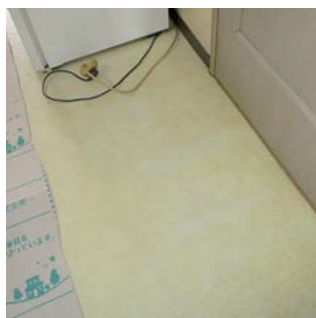
昔は金属管が主流でしたが、更新工事を機会に長期耐久性が期待できる樹脂管への変更をご提案します。

工事の手順

作業箇所の養生



点検口開口前



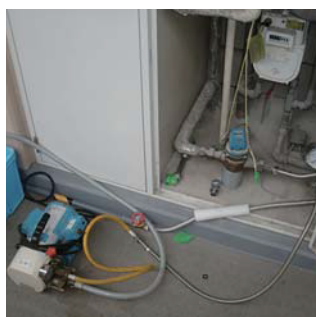
点検口開口時



点検口開口後



耐圧試験



工事の特徴(樹脂管の場合)

- 1 事前調査を原則全戸行い、お片付けいただく範囲を事前に説明させていただきます。
- 2 専有部の工事期間(在宅必要期間)はわずか1日から2日のため、※¹皆さまにかかる負担は大きくありません。

- 3 使用する給水管は耐久性が高く、以後のメンテナンスの必要がありません。※¹
- 4 10年間の漏水保証となっています。

※¹ 建物の状況およびリフォームの実施範囲により、異なる場合があります。 ※水質によりぬめり(スライム)が発生する場合は洗浄工事を実施する必要があります。

※本資料は、マンションの修繕工事の一般事例の概略を掲載しています。※掲載の写真は参考事例です。実際とは異なる場合があります。
※各工事の作業内容、手順は、建物の状況、お見積り、ご契約、お打ち合わせ等により異なります。※詳細につきましては別途お問い合わせください。

お問い合わせは「くらしサポートデスク」へ

0120-264-406 受付時間／9:00～17:30(年末年始を除く)

DAIKYO

Plusidea-Basic.2020.1.NKS